

住宅市街地盤整備事業の再評価リスト

事業名		住宅市街地盤整備事業（中川鳴滝 3 号線）		所在地	長崎市鳴滝 3 丁目地内外	
施工者		長崎市	採 択 年 度	平成 13 年度	完成予定年度	令和 12 年度
全体事業費 （うち国費）		4,100 百万円 （2,050 百万円）	投資済み事業費 （内 国 費 ）	1,916 百万円（進捗率 47％） （958 百万円）		
事業の目的			・本地区は、斜面地で低層密集住宅地という市街地形態等による道路、公園等の基盤整備の遅れから利便、防災上の問題を抱え、住宅の老朽化、高齢化の進展、人口の減少とあいまって地区の活力が低下しつつある。 このような事から道路等の基盤整備とともに住宅の建替更新を推進することにより地区の活性化を促すことを目的とする。			
事業を巡る社会経済情勢等の変化	事業に対する 地元の 理解・協力の状況	・平成 9 年度にまちづくり協議会が発足し、協議会を中心とした協議、勉強会等の活動を継続的に行っており、依然として地元の整備に対する要望は強い。 ・このように、事業開始前より、まちづくりや本事業目的の認識も高く、また住民主体のまちづくりに積極的に取り組んでおり、事業推進のための理解・協力は十分なものである。				
	当該事業 の上位計画	・長崎市第五次総合計画、長崎市都市計画マスタープランに主要事業として位置づけられている。				
	関連事業の 整備状況	・H19.3 に多目的広場（鳴滝遊園）が完成。				
	社会経済状況 の変化	・特になし				
	自然環境条件 の変化	・本事業地区及び周辺地域では、土地利用の大きな変化や、大規模な造成等はなく、自然環境条件の変化はほとんど見られない。 ・本地区は、広場及び高等学校等も含まれており、良好な自然環境の保全に努めている。				
事業の投資効果	費用対効果	B/C=2.20				
況事業の進捗状況	事業 の進捗状況	平成 9 年度：まちづくり協議会発足 平成 12 年度：1 工区測量設計 平成 13 年度：2，3 工区測量設計 平成 14 年度以降：家屋調査、用地買収、道路整備 令和 5 年度までの道路整備 約 298m 平成 5 年度までの用地進捗率 68.1％				
事業の進捗の見込み	事業の進捗 の見込み	・令和 5 年度までに約 298m が整備され、今年度には 1 工区の車道部が概成の見込みで、令和 5 年度からは 3 工区の整備に着手しており、当面 1・3 工区の早期完成を目指す。 ・地元意向を調整しており、事業の早期完成に努める予定である。				
コスト縮減や代替案立案等	コスト 縮減方策	・用地交渉を積極的に進め、早期完成に努める。				
	代替案の検討	・本事業により、防災環境の改善及び利便性の向上が図られ、住宅の建替更新を推進し、地区の活性化に寄与するもので、更なるコスト縮減につながる代替案の可能性はない。				

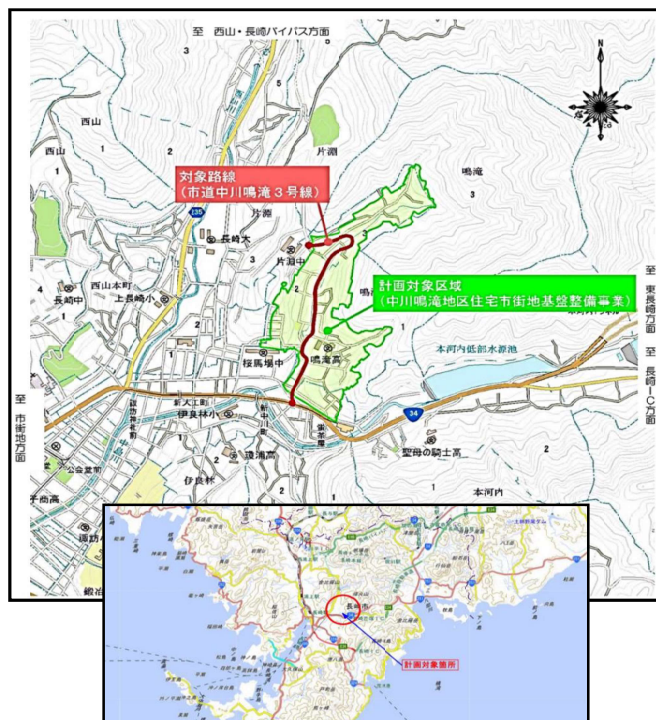
令和6年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

住宅－2 中川・鳴滝住宅市街地基盤整備事業
(市道中川鳴滝3号線)

事業主体 長崎市

再評価
の理由 再評価後変更



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
当初 (H13新規)	—	H13	H22	41.0	1.74	【工事概要】 延長L=1,200m 幅員W=6.0(10.0~12.0)m 宅地供給110戸
第1回審議 (H22年度)	事業採択後 10年経過	H13	H27	41.0	2.42	【当初評価からの変更概要】 用地取得手続き難航による工期延長
第2回審議 (H27年度)	再評価後 5年経過	H13	R2	41.0	2.34	【前回評価からの変更概要】 用地取得手続き難航による工期延長
第3回審議 (R1年度)	再評価後 変更	H13	R7	41.0	2.38	【前回評価からの変更概要】 用地取得手続き難航による工期延長
第4回審議 (R6年度)	再評価後 変更	H13	R12	41.0	2.20	【前回評価からの変更概要】 用地取得手続き難航による工期延長

2. 目的・事業概要・これまでの経緯

◆目的

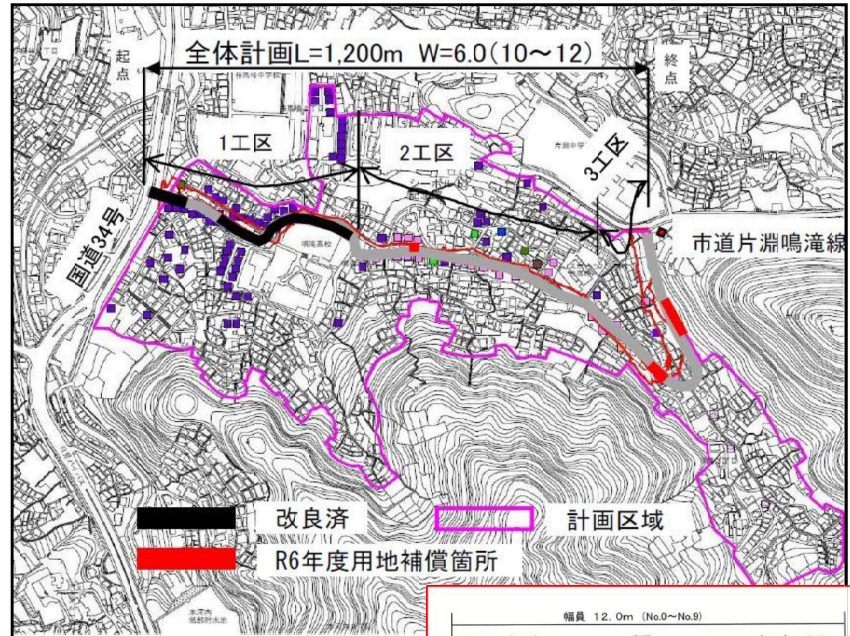
中川鳴滝地区の事業は、地区内における防災等や住居環境および交通の利便性の向上に資するために整備することを目的とする。

◆事業概要

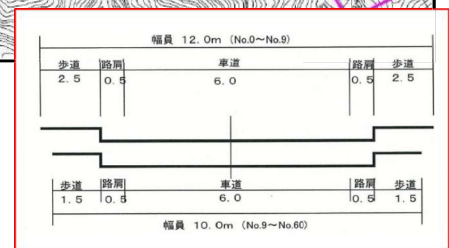
道路延長	L=1,200m
宅地供給	110戸

▼事業経過

平成12年度	事業化
平成14年度	用地買収着手
平成15年度	工事着手



事業進捗率 46.7%(事業費ベース)
用地進捗率 68.1%(面積ベース)



3. 事業の効果・必要性

◆事業の効果

本区域は地形的に長崎特有の斜面地で構成され、密集住宅地という市街地形態により道路等の社会基盤整備の遅れが見受けられ、利便性および防災上の問題を抱えている。このため、本事業により居住環境の改善を図ることができる。



中川鳴滝地区全景

整備済み区間

◆事業の必要性

現在の未改良区間は、幅員が狭小で離合ができない状況であり、救急活動等にも支障をきたしている。

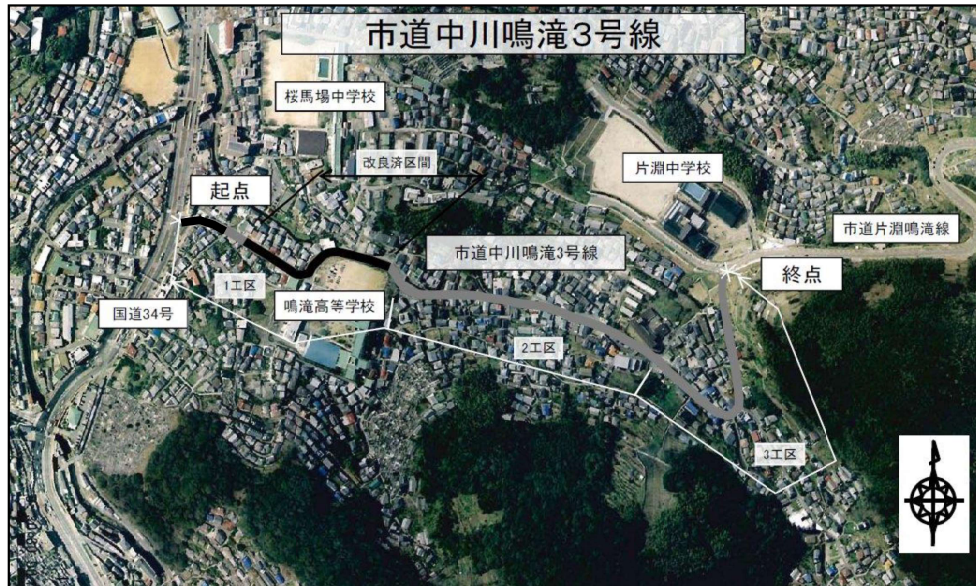


未改良区間

4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

◆事業期間の見直し

【完了工期】 R7(前回) → R12(今回)



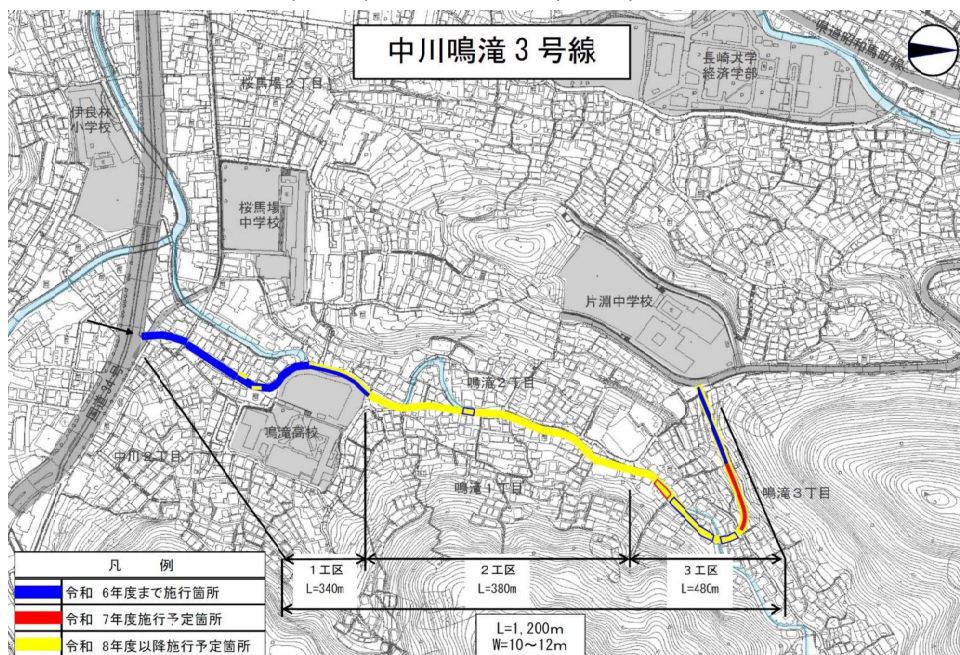
・1工区では長年懸案であった土地について、交渉を重ね、主要な用地の取得が進み、今年度車道部は概成の見込み。

・令和5年度から3工区の工事に着手し、残る用地取得を進めつつ、早期の完成を目指す。

4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

◆事業期間の見直し

【完了工期】 R7(前回) → R12(今回)



・早期の3工区完成を目指す。

5. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和元年度)	今回評価 (令和6年度)
全事業	2.38＝ 104億円／43.7億円	2.20＝ 115.5億円／52.4億円

〔費用〕

- ・道路改良費(工事費、用地費)、住宅宅地事業費、道路維持管理費

〔便益〕

- ・走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益、住宅供給効果

〔プラス要因〕

- ・住宅供給効果の増

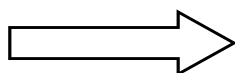
〔マイナス要因〕

- ・工期の延長(用地解決の遅延)

6. 対応方針(原案)

- ◆ 基盤道路が整備されることにより、防災環境の改善及び利便性の向上が図られ、住宅の建替更新を推進し、地区の活性化に寄与する事業である。
- ◆ 事業進捗率は、令和5年度末で約47%(事業費ベース)で、用地進捗率は約68%となっている。
- ◆ 平成9年にまちづくり協議会が発足し、協議会を中心とした協議、勉強会等の活動を継続的に行っており、依然として地元の整備に対する要望は強い。
- ◆ 令和5年度までに約298mが整備され、今年度には1工区の車道部が概成の見込みで、令和5年度からは3工区の整備に着手しており、当面1・3工区の早期完成を目指す。また、未買収地についても地権者への交渉を引き続き行い、事業の進捗を図る。
- ◆ 期間の延長はあるものの、費用対効果が十分に見込まれる。

対応方針
(原案)



継続